

# 「長期休暇の求職者動向」 冬 12月の応募状況

## Contents

- 〈1〉12月の属性別・応募数の動向
- 〈2〉12月の属性別・希望勤務日数
- 〈3〉12月の属性別・希望支払い形態

(弊社の2006年10月～2007年3月の首都圏応募者データより)

# 1 12月の求職者の動き

## ～年末年始、労働意欲が高まるのは誰？～

まずは求職者の応募動向から見ていこう。10月から翌年3月までの半年間の応募数推移を表したのが(図1-1)だ。この半年間の月別平均応募数を「1.0」とした場合の、各月の応募割合を表している。

この図から、12月は応募がやや減少するという傾向が読み取れる。10月から徐々に減少し、2月にはまた増加するという傾向だ。

さらに、12月の応募数を週単位で詳しく見たのが(図1-2)である。11月の第4週から翌年1月第1週までの週別平均応募数を「1.0」とすると、12月第1週～第2週と、第3週～第4週で応募数に変化があることが分かる。12月第3週はクリスマスを控え、第4週は大晦日が目前であることを考えれば、そういった慌ただしい時期に応募数が減るのは、自然とも言えるだろう。

では、そのような傾向は、属性で違いがあるのだろうか。(図1-3)で、職業別の応募数推移を見てみよう。

すると、12月は、ほとんどの属性で応募数が横ばいまたは減少しているなか、高校生だけが増加していることが分かる。普段は学校やクラブ活動に時間を取られる高校生にとって、12月はアルバイトのしやすい時期であり、応募が盛んになるのであろう。

さらに、12月の応募数を週単位で見てみると(図1-4)、高校生は、12月の第2週にピークをむかえることが読み取れる。第1週に最大となる大学生に対し、ちょうど1週遅れた動きを見せるのだ。おそらく、この時期の長期休暇、つまり冬休みの開始時期が大きく影響しているのだろう。一方、フリーターは、第3週でやや応募が減少するものの、全体的に週ごとの変化は小さい。主婦や無職者も同じく、大きな変化はない。

図1-1. 応募数の推移 (10月～翌3月)

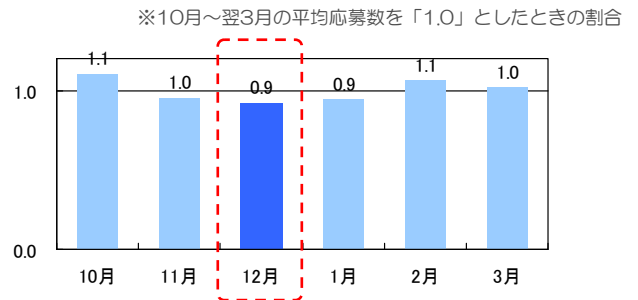


図1-2. 12月の応募数推移 (週ごと)

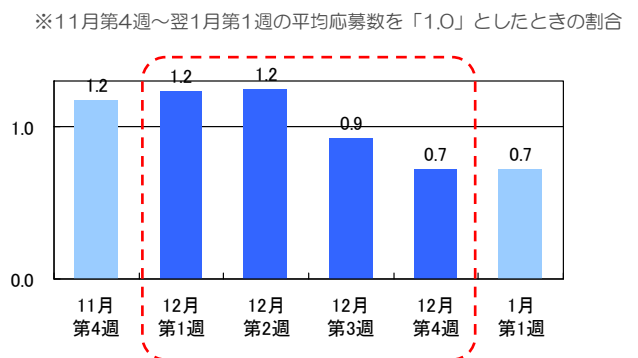


図1-3. 職業別の応募数推移 (10月～翌3月)

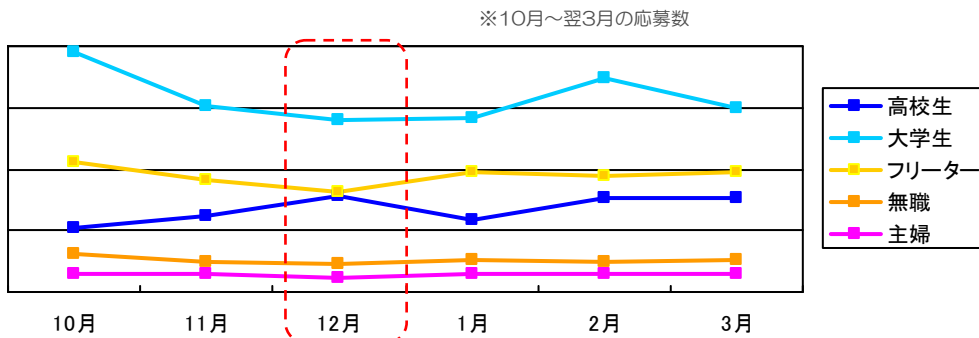
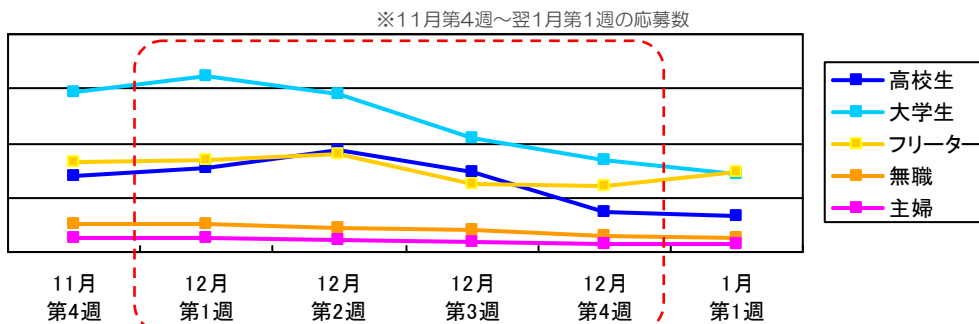


図1-4. 職業別の12月の応募数推移 (週ごと)



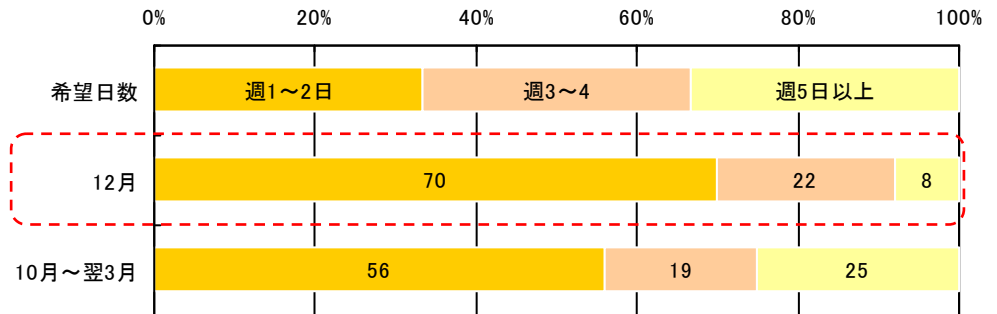
## 2 12月の応募者の特徴

### ～年末年始はどんなペースで働きたい？～

それでは、12月応募者には、どのような特徴があるのだろうか。まず、希望就業日数を見てみよう(図2-1)。

最大の特徴は、12月の応募者の実に7割が、「週1～2日」希望であるということだ。10月～翌3月(56%)と比べると、その多さが際立つ。逆に「週5日以上」はわずか1割にも満たない。12月応募者には、「週1日か2日、スポットで働きたい」というニーズが高いことがうかがえる。

図2-1. 12月の応募者 希望就業日数



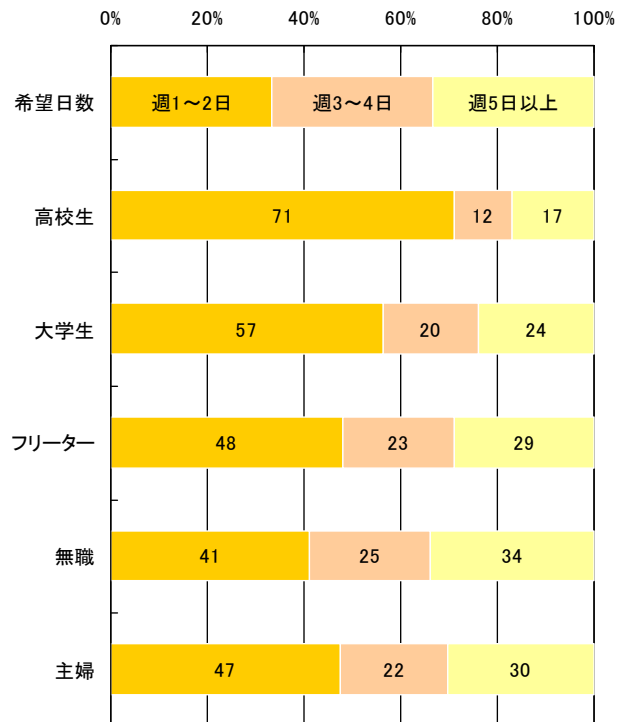
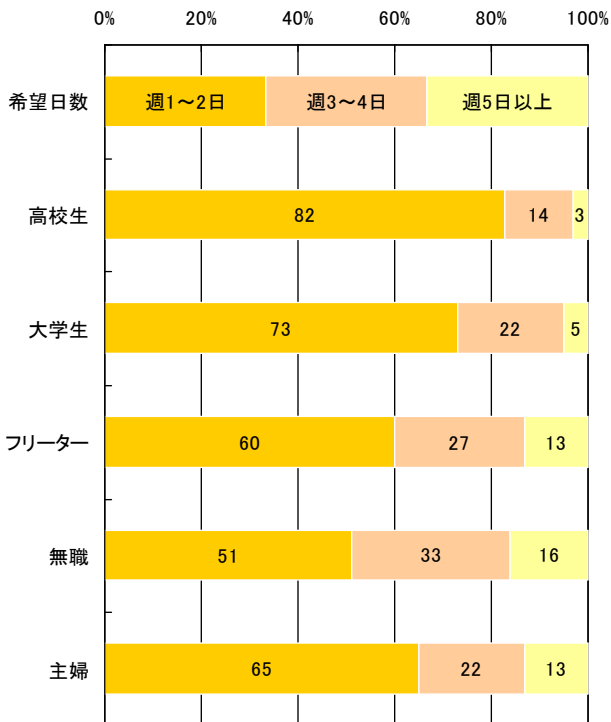
それでは、そのような傾向は、どの属性にも共通するのだろうか。図2-2・図2-3では職業別の希望日数をグラフ化してみた。(図2-2は12月、図2-3は10月～翌年3月)

すると、すべての属性で、12月は特に「週1～2日」が多いという特徴があらわれた。10月～翌年3月に比べ、どの属性でも「週1～2日」が10ポイント以上多いのだ。高校生は、10月～翌年3月でも「週1～2日」が7割以上と高いが、12月にいたっては8割以上となる。また、主婦は、10月～翌年3月には47%だったのが、12月は65%と、実に20ポイント近くも増えている。

12月は、どの属性でも、希望就業日数が少ない傾向だ といえる。

図2-2. 12月の応募者 希望就業日数

図2-3 10月～翌3月の応募者 希望就業日数

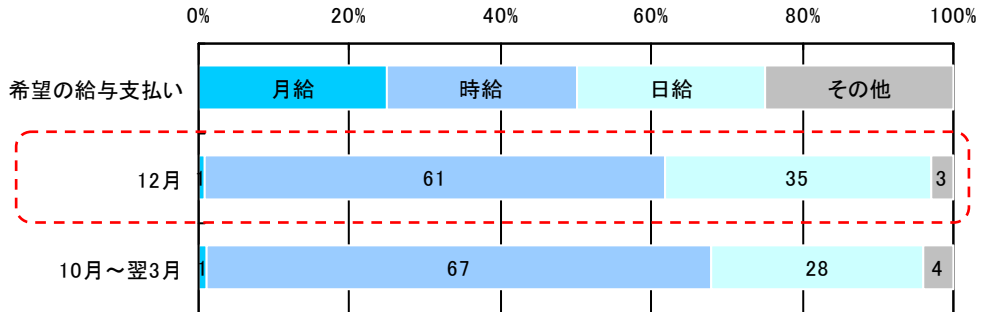


3 12月の応募者の特徴

～人気の支払い形態は？～

次に、12月応募者の希望支払い形態(図3-1)を見てみよう。「月給」「時給」「日給」「その他」の支払い形態のうち、12月は、10月～翌年3月と比べて「日給」が多い(35%)。最も多いのは「時給」(61%)ではあるが、「日給」の希望が増えることは、12月の大きな特徴と言えるだろう。

図3-1. 12月の応募者 希望の給与支払い方法



では、それはどの属性でも同じだろうか。属性別に見た希望支払い形態を、12月(図3-2)と10月～翌年3月(図3-3)で比較してみよう。すると、どの属性でも、12月は「時給」が減って「日給」が増えるという傾向が見られる。特に高校生・大学生・主婦では、10月～翌年3月に比べて7ポイント増加している。

この結果を、先の希望勤務日数の結果と合わせて考えると、12月はスポット的な日払いの仕事を好む傾向が強まるということが言える。高校生や大学生は冬休みの影響が大きいと推測されるが、フリーターや主婦などは、年末年始の急な出費に備えて、現在の仕事と掛け持ちでスポット的に働き、すぐに給与・賃金を手にしたい、そんなニーズも見え隠れする結果となった。

図3-2. 12月の応募者 希望就業日数

図3-3 10月～翌3月の応募者 希望就業日数

